

生活環境と健康の科学

Environmental and Health Science

単位数：2単位

○田村 太郎 准教授：環境保健医学
山崎 雅之 准教授：人間科学部（医学部兼務）
松崎健太郎 講師：環境生理学
紫藤 治 教授：環境生理学

1. 科目の教育方針

健康に影響する生活環境要因に関して、その背景や病態、疾病対策などを学習する。疫学研究、遺伝的要因の解析、予防医学について概説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 健康影響を与える要因に関する流行や要因が理解できる。
- 2) 熱中症の定義と発症メカニズムを概説できる。
- 3) 職業生活が健康に及ぼす影響とその対策について説明できる。
- 4) 生活環境と遺伝的要因の関係について説明できる。
- 5) 高齢者を取り巻く保健医療環境について概説できる。

3. 教育の方法、進め方

オムニバス形式を基本とする。

講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

適宜、資料を配布するが、以下のテキストを参考とする。

- ・木原雅子・木原正博 監訳 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 2014 メディカルサイエンスインターナショナル
- ・樋口進 監修 健康日本 21 推進のためのアルコール保健指導マニュアル 2003 社会保険研究所
- ・日本禁煙学会編 禁煙学改訂第3版 南山堂 2014 南山堂
- ・小澤滯司・福田康一郎 監修 標準生理学（第9版）2019 医学書院
- ・井上芳光・近藤徳彦 編集 体温 2 体温調節システムとその適応 2010 ナップ

6. 教育内容

A. 社会医学の基礎と健康対策（環境保健医学：准教授）

生活環境と健康の関連について、病気の流行や関連要因を、基礎となる疫学の理解によって、理解する。また、集団を対象とした疾病対策の立案、実施、評価に必要な知識をもつ。飲酒・喫煙などに関する生活環境要因の動向と対策について理解する

行動目標

- 1) 疫学調査方法の基礎的知識を学ばせ、具体的な調査計画を立てる能力を養う。
- 2) 疾病の発生要因（宿主、病因、環境）を明らかにするための基礎的知識を習得させる。
- 3) アルコールに関する社会医学的動向と要因、予防対策について理解する。
- 4) 喫煙に関する社会医学的動向と要因、予防対策について理解する。

B. 熱中症の発症の現状と予防（紫藤）

今後予想される地球温暖化による環境変化ならびに健康への影響を概説する。また、発症が著増すると推察される暑熱障害の発生機序およびその予防のための最新の対策を解説する。

行動目標

- 1) 熱中症の分類と治療を説明できる。
- 2) 熱中症の発症メカニズムを説明できる。
- 3) 新たな熱中症の予防方法を説明できる。

C. 職業と健康障害（環境保健医学：准教授）

職業は、労働者が生活の糧を得る手段であると同時に、労働者の社会貢献や生きがいにも通じる。一方で、職場におけるストレスや不適切な作業環境・作業態様は、労働者にさまざまな健康障害を生じさせる。日本人の半数以上は労働者であり、労働者は生活の相当な部分を職場で過ごす。

上記を踏まえた上で、職業生活によるメンタルヘルス障害、VDT 症候群、腰痛を今日的な重要な課題として採り上げて概説する。引き続いて受講生との間で双方向性に議論を深めることで、職業生活が健康に及ぼす影響とその対策について、産業医学的な視点から考えることができる知識と能力を涵養する。

行動目標

- 1) 職業性ストレスがメンタルヘルスに及ぼす影響について説明できる。
- 2) 職業性ストレスの評価法と軽減対策、メンタルヘルス障害予防法について説明できる。
- 3) 職場における VDT 視環境が健康に及ぼす影響とその対策について説明できる。
- 4) 作業環境・作業態様による腰痛の発生メカニズムとその対策について説明できる。

D. 高齢者対策（山崎）

医療技術と高齢化が高度に進展しつづける現代において、老いることの医学的、社会的意味を解説し、加齢による社会的・身体的変化や日本の高齢化対策に関する法律・制度とその実践を学ぶ。また、社会のなかでの高齢者の位置づけや役割の変容、高齢者自身の意識や若年者の高齢者に対する見方の時代変容を考える。高齢者や高齢社会への多様な視点を養いつつ、高齢社会の諸課題への取り組みを考える。

行動目標

- 1) 老年学と超高齢社会の接点を説明できる。
- 2) 超高齢社会の進展の意味を説明できる。
- 3) 介護保険制度と諸問題を説明できる。

回	授業内容	担 当
1	疫学研究の基礎	田村 太朗
2	疫学研究の応用	田村 太朗
3	循環器疾患の予防の動向と対策	田村 太朗
4	生活習慣病の動向と対策	田村 太朗
5	体温調節機能の基礎と暑熱に対するヒトの応答の概要	紫藤 治
6	温度馴化の概要と生体機能の変化	紫藤 治
7	熱中症の分類と発症の現状と発症メカニズム	紫藤 治
8	熱中症の新たな予防法ー特に高齢者において	松崎健太郎
9	職業生活による健康障害とその対策 (1) 産業保健管理体制	田村 太朗
10	職業生活による健康障害とその対策 (2) 産業中毒	田村 太朗
11	職業生活による健康障害とその対策 (3) メンタルヘルス	田村 太朗
12	職業生活による健康障害とその対策 (4) 働く人の健康問題	田村 太朗
13	加齢と老化 (生理的老化と病的老化)	山崎雅之
14	日本の医療の動向 (後期高齢者医療制度と介護保険制度)	山崎雅之
15	高齢者総合的機能評価 (CGA)	山崎雅之